

志緒野マリ著

「今度こそ本気で英語をモノにしたい人の最短学習法 - 通訳ガイドの実践アドバイス - 」
祥伝社黄金文庫 2000年2月1日刊を読む

英語学習の「いつわりの神話」から目覚めよ

1. 言語習得の「5つの鍵」

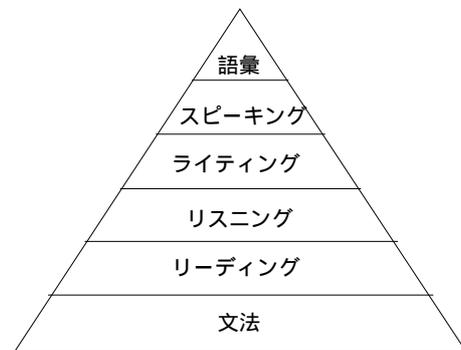
- (1) 文法力をつければ、後は語彙ごいだけの勝負で、ハイレベルな会話が可能
- (2) 学習量の比率は、語彙 4 : 文法 3 : 読み聴きのインプット 2 : アウトプット訓練 1
- (3) 「精読」こそが、語彙のニュアンスも文法も、一石二鳥で吸収できる最良の方法
- (4) 辞書をちゃんと読めば、ネイティブなしでも、正しい英語(発音も意味も使い方)の 95% が身につく
- (5) 語学は、結局は暗記である。覚えなければ、何も始まらない

P17

2. 1に文法、2に語彙 - 英語学習のピラミッド

基礎ががっちりしていないとダメ

英語学習がどういうパーツで出来上がっているか、ピラミッドを作ってみた。



(1) 第1段 = 文法

大人が外国語を学ぼうとする場合、文法は不可欠である。まず文法によって、日本語と英語の文の成り立ちの違いを、論理的に理解する必要がある。基礎文法をモノにすれば、その後の英語学習にささげる総エネルギーはうんと節約できる。

(2) 第2段 = リーディング

文法の学習と並行して、リーディングを始める。これは、正しい英文に接することで、学びつつある文法が、実際の英文にどう反映されているかを知って、英文の成り立ちを理解するためである。

(3)第3段 = リスニング

次に、視覚的にとらえてきた英文を、今度は耳にすることで、英語の音声をインプットしていく。もっとも単語を覚える時に、発音とアクセント記号をきちんと頭に入れておけば、初めて聞く音でも十分に理解できる。

(4)第4段 = ライティング

ライティングは、辞書をひきひき、じっくりと考えるアウトプット作業である。入門の文法やリーディングと並行して、習ったばかりの文を、日本語から英語に書き換える練習をするといい。英作して書いていくことで、文法の詳細がちゃんと理解できているかどうか、チェックできる。

(5)第5段 = スピーキング

自力で英文を作り出して(どこかの暗記本から借用してくるのではなく)スピーキングするためには、ひと通りの「文法」と、言いたい内容に含まれている「語彙」を、辞書やノートを見ることなしにアウトプットする力が必要である。^{ちまた}巷の英語本の大半を占める「英語らしい表現集」などは、それを実際に使うケースに滅多に遭遇しないから、じつは無駄が多いやり方である。それよりも、自分が言いたいことを、ひとつずつ組み立てていく力をつけることが、遠まわりに見えて、じつは近道だと知ってほしい。

(6)第6段 = 語彙

言いたいことを英文に即興で置き換える力がついたなら、後は語彙量の勝負になる。あなたが英語で関わる分野の語彙を増やせば、会話できる分野が広がる。通訳の仕事をするなどは、その日の仕事で必要となるだろう単語を詰めこんでいくことで、なんとかこなすことも多い。

なぜピラミッドか

文法、リーディング、リスニングの基礎インプットができていれば、スピーキングはせずとも、英語の力はサナギの状態で育っている。そして将来、「英語を話す」必要が生じた時に、少し集中的に訓練すれば、スムーズにアウトプットできるようになる。机の上で、本や辞書を活用して得た論理的な知識は、定着力が強い。私はいつも、大学の言語専門の先生方が、日常的にほとんどプラクティスする機会がないのに、堅固な知識を保持していて、必要な時には、すこぶる正しく話されることに感心する。冷凍食品と同じで、ちょっと鮮度に欠ける場合があるかもしれないが、「頭」で学んだ言語は、保持期間が長いのが特徴だ。

これに対して、基礎固めを手抜きして、ピラミッドの底辺部分を形成しないままに、オーラル的なアウトプット訓練に飛ぶと、使い続ける間は、そこそこうまく行くが、使わない時期がつつくと、錆^{さび}つくのが早い。2年留学しても、帰国後3年使わずにいれば、ほとんど無^きに帰す。「身体」で覚えたものは、毎日使わないと、すぐに忘れ去るのだ。また、文法力が弱いと、ピラミッドの底辺が短いために、到達できる英語力の高さには限界ができる。

3. 発音の練習には、次の2ステップがある。

(1)ステップ 発音記号が意味する音を理解する

ネイティブのような音を出す必要はないが、自分なりに区別をつけて、母音や子音の音を理解し、自分の口で作り出せるようにする。

発音記号一覧表

1)きちんと理解すべき特徴的な音素

子音 - fvθ dʒ ʒdʒ lrjw

母音 - æʌəɔ

2)神経質になる必要のない音素

子音 - pbtdkgszhmn

母音 - ieau

これらはアバウトなレベルでは、日本語的な音でもさしつかえない

(2)ステップ 単語帳を作る

単語帳に記入する時、発音記号やアクセントも書き入れて、その通りに発音してみる。慣れれば、いちいち声を出さずとも、発音記号をみれば、頭の中で音をイメージできる。このプロセスなしに単語を覚えても、無意味である。

「発音記号」とは、文字だけで音を伝え、ネイティブの家庭教師やテープがなくても、学習者がその「単語の音」を知ることができるように発明された、素晴らしいツールである。

「ステップ1」にかかる時間は、発音練習全体の3%でいい。それより、「ステップ2」のほうは、覚えようとする語彙の量に比例して、莫大な時間が必要になる。

P.65 ~ 66

(3)知らない単語は聞き取れない

リスニングのコツは、上っ面だけの、英語の音への慣れではなく、個々の単語の音をきちんと覚え、認識できる単語の数を増やすこと、つまりボキャビル(Vocabulary building 語彙増強)こそが肝要なのである。英語が聞き取れない時に、初心者はよく「ネイティブの音に慣れなければ」と考えてしまうが、いくら英語の音に慣れても、「知らない単語の音は永久に聞き取ることはできない」。

P.67

4. 辞書活用

(1)電子辞書より紙の辞書

オススメは、学習用の辞書は、あくまで「紙の辞書」を使うということだ。「電子辞書」は、便利だ。今の私はもう、9割がた電子辞書を使っている。なんたって、ひくのが速い。

しかし「便利さの裏には、必ず魔がひそんでいる」ことをお忘れなく。ワープロを使うことで、漢字が書けなくなり、電卓を使うことで暗算力が低下するがごとくだ。私が学習過程で身につけた「英語のセンス」「語のニュアンス」「語用・語法・文法の再々確認」の作業は、ほとんど「紙の辞書」を読む時に身についたと思う。

電子辞書の問題は、クリックしないと、画面が現れないことだ。紙の辞書なら、調べる単語を探してページをくる時に、その派生語や類似語が目に入る。そして、探し当てた項目の中で、その時に必要な意味を見つけ出すまでに、その他の意味がどんどん目に入る。ついでに文例も目に入る。この文例を素早くスキャンできることが、紙の辞書の最大の強みなのだ。

電子辞書にも文例はちゃんとあるが、いちいちクリックしないと出て来ない。だから、平面に並んでいて、目でさっととらえられる「紙の辞書」のメリットには勝てない。学習途上の方は、携帯用に電子辞書を使うのはともかくとして、自宅での学習には、「紙の辞書」を愛用することをオススメする。

電卓で計算力が失われ、ワープロで漢字力が失われたように、電子辞書は今後ますます語のニュアンスをつかみとる力を奪うだろう。ここ数年の教室風景を見ていると、電子辞書の普及はめざましい。3年前は珍しかったが、今はもう、ほとんど全員が電子辞書である。やはり、若者の能力を奪い、夢を奪っているのは、文明のリキなのである。

(2) 辞書活用、5つの鍵

辞書は、ひくというより読みこなす

自宅学習では、電子辞書よりも紙の辞書

英作の時は、和英をひいて、候補の単語を見つけたら、もう一度英和でも確認する

文中の品詞を区別して、辞書にあたる

文例に必ず目を通す

(3) 辞書の選び方

私が最も日常的に使っている「紙の辞書」は、いわゆる「学習辞典」といわれるもので、学生を対象とした中型辞典である。例文が多く、文法や語法の説明も詳しく、5～7万語を収録したものである。現在手元にあって、この本を書くためにも活用しているのは、紙の辞書が、研究社『ライトハウス英和辞典』で、電子辞書は大修館書店の『ジーニアス英和辞典』である。それぞれセットの和英辞典も使っている。学習者が最も活用するのは、このタイプの辞書でいい。数種類出ているが、どれを選ぶかは自分で手にとって比べて、直感で選んで差し支えない。どれも充分にいい辞書だ。成果を分けるのは、辞書の種類ではなく「いかに使うか」である。

P.141 ~ 143

5. マイ単語帳の作り方、活用法

(1) 意味は、その単語に遭遇した文脈での意味を書き、別の文脈で同じ単語が別の意味で出てきたら、新出単語として、再び書くとよい。辞書を読む時にみつけた意外な意味や用例、品詞違いの派生語や同意語反意語なども、くどくならない程度に、特徴的なものだけを書く。また辞書に、「発音注意」「活用注意」など特記事項がある場合は、単語帳にもメモしておく。

(2) 単語帳活用、5つの鍵

市販の単語集は使わない

カコモンなどのターゲット教材の中から拾うこと
アクセントと発音記号もきちんと書く
違う文脈で、違う意味で出てきた場合は、別単語として新たに記録する
反意語、同意語、名詞形、形容詞形など派生語も、特徴的なものは要チェック

(3) 並べ方のポイント 3 つ

アルファベット順に書いてはいけない
接頭辞、接尾辞別に集めてはいけない
あまりに難しいものばかり並べてはいけない

6 . 単語の覚え方

- (1) 単語帳は、覚えるためのツールである。書いただけで安心するのは、ケーキを買ってきただけで、食わずに放置して腐らせてしまうのと同じくらい馬鹿馬鹿しいことである。
- (2) 作った単語帳の単語は、「100 % 頭に入れてやる」という気迫でのぞむこと。1冊の単語帳が丸々頭に入ったら、その達成感で、次からもこのやり方が癖になる。肌身離さず持ち歩いた単語帳は愛着がわき、あなただけの宝物となって、捨てることができなくなるだろう。
- (3) このマイ単語帳のいい点は、いったんとぎれた英語学習を再開する時にも、ものすごく役に立ってこと。私自身、ガイドの仕事をししばらく休んだ後に再開する時など、駆け出しの頃に作った単語帳で、ボキャブラリーの再チェックをすることがある。
- (4) なんとって、あなた自身が、どうしても覚えたいと思った単語だけが書かれている、この世に1冊しかない最強の単語帳なのだ。

7 . 暗記の手順

- (1) 10 ページぐらいを1ユニットにして、まずは、ノートをにらんで、ひたすら頭に入れる。慣れれば、10 ページをとりあえず頭に入れるのに、20 分もかからない。
- (2) カード大の紙を^{しおり} 栞にして、それで英語のページを隠して、日本語を見て、英語を思い浮かべる。スピーキング力をつけたいならば、必ず日 英の方向で暗記する。
- (3) スペルと発音がちゃんと頭に浮かんだら、カードをずらせて、正否を合わせる。間違っただのは、「コンチクショウ印(実際の印の形は、あなたの好みで)」をつけておいて、1 ページ終わったら、印の単語だけ、もう一度思い出す。
- (4) 1 ユニットの 10 ページがすんだら、 に戻って、ふたたび思い出し作業をする。
- (5) 10 ページをほぼ完全に覚えたら、もう一度、印のついているものだけ繰り返す。

- (6)すべて覚えたら、ページの頭に「修了の喜び印」をつける(私の場合は、ハナマルだった)。後で繰り返し挑戦し、その度にこの印をつけると、そのページを何度制覇したかが、一目瞭然になる。喜び印が3つ、5つと増えた頃には、それらの単語が完璧に頭に入っている。
- (7)覚えにくい単語には、コンチクショウ印が何重にもついているから、やがて憎しみがこみあげてきて、特別扱いの「お尋ね者」的単語となり、かえってよく覚えてしまう。
- (8)ガイド試験からもう20年がたつが、いまだに「ああこの単語、ガイド試験で覚えたアレやな」と思い出すことがある。この方法は決して楽ではなく、暗記作業はちょっとしんどいが、定着力のすごさは我ながら驚く。コストパフォーマンスは文句なしだ。やはり、苦勞して身につけたものは、長持ちするのである。

8. 語学は結局は暗記にとどめだ！—「書き取り」で「暗記」—

(1)この真理を体得せよ

語学習得は、結局は暗記である。文法を論理的に理解したり、語のもつニュアンスを感じ取ったり作業も大切だが、最後のプロセスは、学んだことを頭に入れることだ。

なぜなら英語を聞いて話して、という言葉のキャッチボールを楽しむためには、そこで必要とされる文法も語彙も、頭の引き出しに入ったものしか使えない。だから、結局は暗記なのである。

暗記作業を促進するために、「大きな声を出す」「その自分の声を聞く」「手を動かして書き取る」など五官を総動員することで、より強く記憶を定着させることができる。

中でも、「書き取る」という作業は日本人向きではないか、と考える。なぜなら、2千字近い複雑な常用漢字を、義務教育の中で覚えてきた日本人は、聴覚よりも視覚、そして手先の器用さを、漢字文化の教育副産物として享受しているはずだからだ。今の日本は、英会話ブームで、薄っぺらな英会話にあこがれる人が多いが、日本のこのすばらしい漢字文化にもっと誇りをもって、大切にしてほしいと思う。「漢字を書く」という作業は、「キーボードをたたく」という作業の何十倍もの繊細さが必要とされる。

(2)ただし、闇雲に書いても伸びない。生徒に「単語帳を作って単語を覚えるように」と指導しているが、ある生徒がその力作を見せてくれた。ひとつの単語をノートにびっしり10回ずつ書いている。これはダメだ。なぜなら、同じ単語を続けて10回書く間、手は動いているが、頭は働いていない。頭に負荷がかかっていない。だからダメなのだ。

(3)私の「書き取り暗記」は、ちと違う。例によって単語帳の英語を隠して、日本語だけを見て、

頭で英単語を思い浮かべて、発音する。もしくは、発音をイメージする

そのスペルをきちんと一度書いてみる

答え合わせする。そして、間違っていたら、

「怨念をこめて」正しいスペルをもう一度書き取る。または、正しい発音を言う

(4)書き取りはあくまで補助作業で、中心は「記憶すること」だ。あくまで、頭の働きと連動して手を動かすことだ。「勉強しているのに伸びない」という多くの人は、「暗記作業」がきちんとできていない人だと思う。

(5)学習作業で最も頭に負荷がかかるのは、整理したノートの中身を「頭にたたき込む」プロセスである。机に何時間向かっていても、「やる気」がなければ、「暗記作業」は遅々として進まない。そのほかの作業は、テレビのサスペンス劇場のストーリーを追いながらでもできるが(ながら勉強の達人の弁)、「暗記作業」だけは、そう甘くない。真剣勝負だ。だからこそ、効果も抜群なのだ。

(6)記憶力を高める方法

記憶を促進する3つのポイントは、

間隔をあけて暗記する

覚えたら、すぐ寝る

思い出し訓練

(7)暗記作業は苦しい。しかし、努力と工夫の見返りも大きい。英語は、結局は暗記作業がモノをいうのだ。

[コメント]

長い引用になったが、英語の学習法のエキスが示されている。志緒野先生の本を購入し、正確に読み込んだ上で、その大部分を実行することをおすすめしたい。

- 2009年5月11日林明夫記 -